

## 第6 資産カルテ（平成21年度決算）

### 1. 資産カルテの目的

県が管理する大規模な県有施設については、建設後の維持管理など今後の県財政への影響があることから、施設の状況や今後の大規模改修・修繕計画などについての確かな把握に努め、適正かつ効果的な維持管理を行っていくとともに、今後の維持管理や施設整備に対する県民の皆様の理解を得る観点から、施設に関する財務情報をわかりやすく提供していくことが重要と考えます。

このため、県議会からの提言も踏まえ、施設の適切な管理と県民の皆様への情報開示のため、大規模施設について「資産カルテ」を作成し、公表することとしました。

### 2. 対象施設の考え方

- (1) 施設の規模・・・県財政への影響の観点から、施設の規模が相当程度あること。
- (2) 県民の利用・・・県民への情報開示の観点から、広く県民に利用されている施設であること。
- (3) 利用料金の徴収・・・維持管理費と料金との関係を検証する観点から、利用料金を徴している施設であること。

### 3. 今年度における対象施設

上記の考え方にに基づき、今年度は、以下の施設の資産カルテを作成しましたので、次頁以下に掲載します。なお、今後、対象施設を順次拡大していきます。

三重県総合文化センター…………… 複合文化施設（文化会館、県立図書館等）

三重県営サンアリーナ…………… コンベンション施設（メインアリーナ、サブアリーナ等）

三重県営鈴鹿スポーツガーデン …… 総合スポーツ施設（水泳場、庭球場等）

### 4. 試作版からの追加項目

平成21年度決算からは、下記の項目を追加いたしました。

- (1) 県民一人当たり運営費  
施設の中には、無料で利用できる施設があることを踏まえ、より多面的な施設の運営管理に資するため、県民一人当たり運営費を算定しお示ししています。
- (2) 施設の耐震化の状況、バリアフリー化の状況  
施設の状況に関する情報を、さらにカルテの中に盛り込み、資産情報の一元化を進めるため、施設の耐震化の状況及びバリアフリー化の状況を掲載しています。
- (3) これまでの運営評価と今後の改善方針  
今後の利用率の向上、良質なサービスの継続的な提供、運営コストの低減を図るため、これまでの管理運営評価と今後の改善方針を掲載しています。
- (4) 利用料金収入及び利用者一人当たり運営費の推移【グラフ】  
過去3ヵ年の利用料金の推移と利用者一人当たり運営費の推移を示したグラフを掲載しています。

### 5. 資産カルテの活用

県が管理する大規模施設について、長期にわたり計画的かつ効果的な維持管理を進めるとともに、施設に関する財務情報等をわかりやすく提供するため、この資産カルテを活用し、施設の運営管理の状況を多面的にチェックしていくことで、利用者の皆様に良質なサービスを提供し効率的な施設管理を行っていけるよう努めます。

資産カルテ【平成21年度決算】

施設名

三重県総合文化センター

建築年月日	平成6年6月竣工	供用開始日	平成6年10月	延床面積	46,305㎡	敷地面積	62,224㎡
建物構造、構成	鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造						
施設運営形態	指定管理者	指定管理者名	財団法人三重県文化振興事業団				

	資産、支出		負債、財源		ライフサイクルコスト	
これまでの整備	総事業費(A)+(B)+(C)	426億円	財源計	426億円	施設の耐用年数を50年とし、50年間の総コストを計上	
	建物(A)	357億5千9百万円	(内訳)		減価償却費累計額①	
	1期(当初)	357億5千9百万円	国庫支出金	—	357億5千9百万円	
	2期		地方債	298億6千7百万円		
	用地(B)	27億5千3百万円	県費その他	127億3千3百万円		
	備品・その他(C)	40億8千8百万円	(地方債残高	3億1百万円)		
	過去の改修・修繕費	15億3千万円			改修・修繕費累計額②	
今後の整備	大規模改修計画(予定)		} 51億1千8百万円		・これまで 15億3千万円	
	・平成26年度 建築設備・建築物	5億円			・今後 51億1千8百万円	
	・平成46年度 建築設備・建築物	5億円			計 66億4千8百万円	
	修繕計画(予定)				人件費累計額③	
	・舞台修繕(22~25)	3億5千2百万円			・これまで 76億 8百万円	
	・舞台設備(26~55)	22億5千 万円		・今後 160億7千4百万円		
	・建築設備(22~55)	15億1千6百万円		計 236億8千2百万円		
					管理費累計額④	
					・これまで 85億1千7百万円	
					・今後 182億5千9百万円	
					計 267億7千6百万円	
					利子累計額⑤	
					・これまで 95億円	
					・今後 1億6千8百万円	
					計 96億6千8百万円	
					ライフサイクルコスト計	
					①~⑤ 計	
					1,025億3千3百万円	

運営費(単年度)	支出額(決算額)		収入額(決算額)	
	H21	H20	H21	H20
人件費	503,661	492,130	料金収入	162,501
管理費	484,354	506,888	事業収入等	152,350
修繕費	138,788	346,881	県費負担額	1,247,714
事業費	417,079	413,514		1,434,316
元利償還金	18,683	17,793		
計	1,562,565	1,777,206	計	1,562,565
		……………A		1,777,206

成果指標(実績は21年度)	
目標値①	施設利用率 年間73%
実績	79.7%
目標値②	
実績	

県民1人当たり運営費(H21)	
A÷C H21	839 円
C… (H21推計人口)	1,862,575 人(H21.10.1)
【 A÷D H20	951 円
D… (H20推計人口)	1,869,669 人(H20.10.1)】

利用者数	
・当初予定利用者数	
年間65万人(図書館除く)	
・実績(平成21年度)	
781,159 人(図書館除く)	
344,264 人(図書館)	
計	1,125,423 人 …… B
(参考) 利用者1人当たり運営費(H21)	
A÷B H21	1,388 円
【 H20	1,785 円 】

管理運営方針(基本的考え方、料金改訂等)

- ・県民の誰もが文化芸術を享受でき、文化活動に参加・参画できる環境づくりを進める。
- ・運営の中で積み上げてきた事例や蓄積された幅広いノウハウ、成果を県内の市町や県民に情報発信し、新しい地域社会を創造する原動力となる「文化力」を高めていく。
- ・行政機関、民間団体、NPO、ボランティア等との連携を強化し、多様な学習機会、交流の場、発表の場を提供する。
- ・文化芸術、生涯学習、男女共同参画活動の拠点施設として、情報提供、交流、人材育成、活動支援等の専門性を発揮する。

料金体系

【営利】

- ・大ホール 平日午前 入場料1,000円以下 61,160円
- ・中ホール 平日午前 入場料1,000円以下 30,580円
- ・大会議室 午前 17,210円

【非営利】

- ・大ホール 平日午前 入場料1,000円以下 40,770円
  - ・中ホール 平日午前 入場料1,000円以下 20,380円
  - ・大会議室 午前 8,560円
- など

施設の耐震化状況

建物構造物は、S56建築基準法改正後建築であるため、耐震基準を満たしている。  
 吊天井については、H20に大ホール・中ホール・多目的ホール、H23にレセプションホール等の耐震改修工事を実施し終了予定。

施設のバリアフリー化状況

平成12年度にバリアフリー工事を実施済。(約1.2億円)(スロープ改修・階段手摺設置・点字ブロック設置・トイレ改修・車椅子用駐車場整備他)

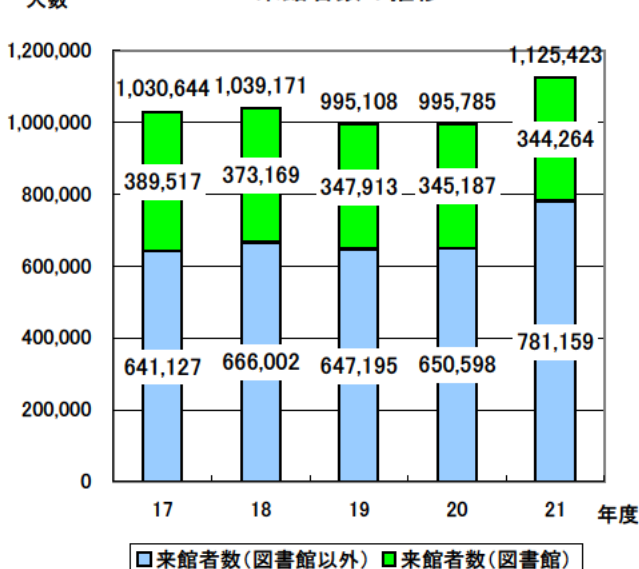
これまでの運営評価と今後の改善方針【担当部評価】(利用率の向上、良質なサービス提供、運営コスト低減など)

経営の効率化、柔軟な事業展開を行うとともに、機動性・弾力性の高さを活かして各種サービスの改善に取り組んできた結果、利用率は最高値を毎年更新してきた。  
 複合施設としてのメリットを活かし、県の文化芸術、生涯学習、男女共同参画の進展に大きく寄与するべく、引き続き、蓄積されたネットワークやノウハウを発揮して効率的な運営を行っていく。

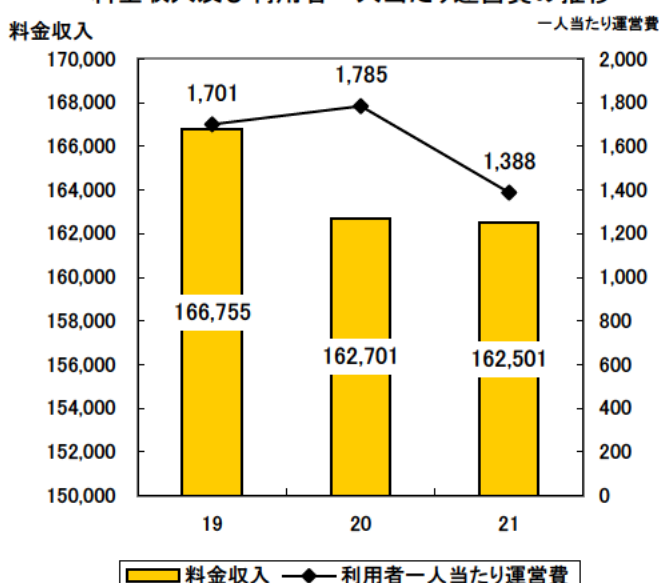
成果指標の推移

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
施設利用率(%)	70.9	73.7	73.8	75.2	79.7

人数 来館者数の推移



料金収入及び利用者一人当たり運営費の推移



建築年月日	平成6年5月竣工	供用開始日	平成7年1月4日	延床面積	24,312㎡	敷地面積	28,645㎡
建物構造、構成	鉄筋コンクリート造及び鉄筋造3階建						
施設運営形態	指定管理者	指定管理者名	株式会社 スコルチャ三重				

	資産、支出	負債、財源	ライフサイクルコスト
これまでの整備	総事業費(A)+(B)+(C) 174億2千4百万円	財源計 174億2千4百万円	施設の耐用年数を50年とし、50年間の総コストを計上
	建物(A) 1期(当初) 160億1千4百万円 2期 用地(B) 伊勢市からの無償貸与 備品・その他(C) 14億1千万円	(内訳) 国庫支出金 地方債 140億2千万円 県費その他 34億4百万円 (地方債残高 2億7千6百万円)	減価償却費累計額① 160億1千4百万円
今後の整備	過去の改修・修繕費 7億3千1百万円		改修・修繕費累計額② ・これまで 7億3千1百万円 ・今後 34億4千4百万円 計 41億7千5百万円
	大規模改修計画(予定) ・平成22~23年度2億3千7百万円 ・平成24年度 5千7百万円 ・平成25年度 7千万円 ・平成26年度 8千万円 修繕計画(予定) 躯体・付帯設備(H27~H56) 30億円	34億4千4百万円	人件費累計額③ ・これまで 16億5百万円 ・今後 27億3千万円 計 43億3千5百万円  管理費累計額④ ・これまで 35億4千4百万円 ・今後 76億6千5百万円 計 112億9百万円

運営費(単年度)	支出額(決算額)		収入額(決算額)	
	H21	H20	H21	H20
人件費	84,560	82,091千円	料金収入	118,775 94,204千円
管理費	231,111	208,353千円	事業収入等	18,437 19,543千円
修繕費	82,005	98,868千円	国庫負担額	64,080 72,808千円
事業費	36,365	23,480千円	県費負担額	238,275 231,408千円
元利償還金	5,526	5,171千円		
計	439,567	417,963千円	計	439,567 417,963千円
	……………A			

利子累計額⑤ ・これまで 44億9千9百万円 ・今後 2億5千万円 計 47億4千9百万円
ライフサイクルコスト計 ①~⑤ 計 404億8千2百万円

成果指標(実績は21年度)		
目標値①	メインアリーナ平均稼働率	64.0%
実績		61.4%
目標値②	サブアリーナ平均稼働率	75.0%
実績		68.8%
目標値③	会議室等平均稼働率	44.0%
実績		23.0%
目標値④	サンアリーナ利用人数合計	394,000人
実績		361,796人

県民1人当たり運営費(H21)		
A÷C	H21 236円	C… (H21推計人口) 1,862,575人(H21.10.1)
【A÷D	H20 224円	D… (H20推計人口) 1,869,669人(H20.10.1)】

利用者数	
・当初予定利用者数	年間 39.4万人
・実績(平成21年度)	361,796人
計	361,796人 …… B
(参考) 利用者1人当たり運営費(H21)	
A÷B	H21 1,215円
	【 H20 1,465円 】

管理運営方針(基本的考え方、料金改訂等)

- ・“であいと交流”のステージを提供します。
- ・新たな“であい”によって文化を育み、“交流”を通じて人々に活力を与えます。
- ・多目的機能を備えた大規模複合施設である特性を活かし、様々な催しを実施し、地域との豊かなコミュニケーションに寄与します。
- ・特色のある文化活動や国際交流、スポーツの普及振興に取り組み、魅力ある三重県に貢献します。
- ・様々な活動を通じて、経済を活性化し、地域振興に寄与します。

料金体系

メインアリーナ【全部利用】

アマチュアスポーツ等 平日 8,200～126,000 円/1H  
 土・日・祝 9,800～150,000 円/1H  
 音楽・プロスポーツ興行  
 平日 84,000～126,000 円/1H  
 土・日・祝 100,000～150,000 円/1H

サブアリーナ【全部利用】

アマチュアスポーツ等 平日 1,600～30,000 円/1H  
 土・日・祝 2,000～36,000 円/1H  
 音楽・プロスポーツ興行  
 平日 20,000～30,000 円/1H  
 土・日・祝 25,000～36,000 円/1H

施設の耐震化状況

H18～19 天井耐震改修工事実施

施設のバリアフリー化状況

H13 身障者用駐車場及び屋外通路設置工事

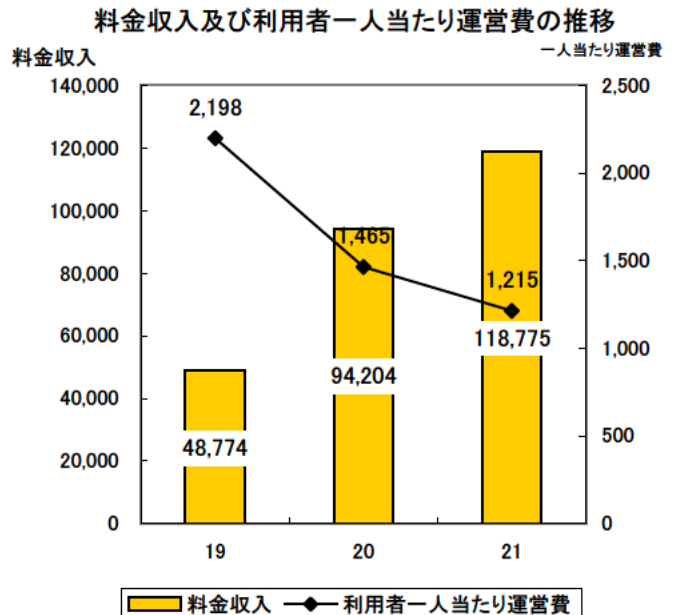
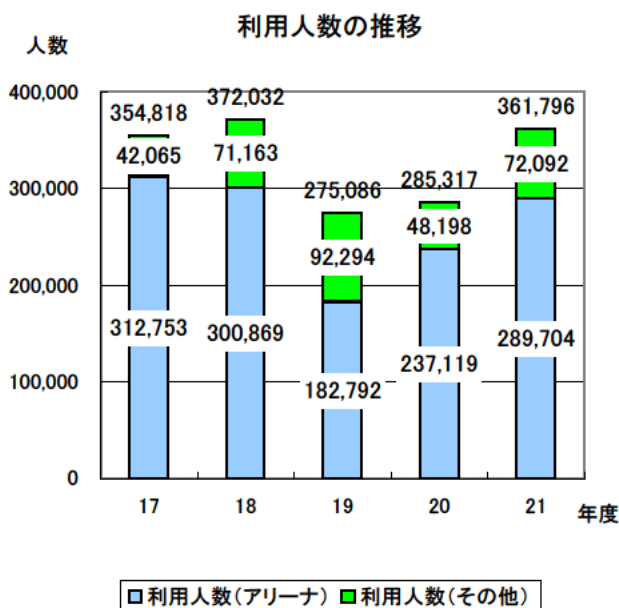
これまでの運営評価と今後の改善方針【担当部評価】(利用率の向上、良質なサービス提供、運営コスト低減など)

自主事業では児童等を対象としたプロスポーツ選手によるクリニックやカントリーミュージックの祭典など、多彩なイベントを開催して地域におけるスポーツ・文化の振興・交流に貢献するなど、各種取組において、常に内容のレベルアップをはかるとともに様々な分野へ積極的にチャレンジするなど、年々進化を遂げていることが伺える。  
 今後は、老朽化が進む施設・設備について、工事対応による利用促進等への支障をきたすことのない運営を目指す。

成果指標の推移

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
利用人数	354,818	372,032	275,086	285,317	361,796
平均稼働率(メインアリーナ)	※-	52.6%	55.0%	56.6%	61.4%

※H17は平均稼働率測定せず



資産カルテ【平成21年度決算】

施設名

三重県営鈴鹿スポーツガーデン

建築年月日	平成4年8月	供用開始日	平成4年10月	延床面積	34,269.76㎡	敷地面積	391,000㎡
建物構造、構成	鉄骨造、鉄筋コンクリート造						
施設運営形態	指定管理者	指定管理者名	三重県体育協会グループ				

	資産、支出	負債、財源	ライフサイクルコスト
これまでの整備	総事業費(A)+(B)+(C) 188億6千8百万円 建物(A) 121億4千3百万円 1期 14億5百万円 2期 92億5千4百万円 3期 14億8千4百万円 用地(B) 21億5千2百万円 備品・その他(C) 45億7千3百万円	財源計 188億6千8百万円 (内訳) 国庫支出金 地方債 130億5千万円 県費その他 58億1千8百万円 (地方債残高 2億6百万円)	施設の耐用年数を50年とし、50年間の総コストを計上 減価償却費累計額① 121億4千3百万円
	過去の改修・修繕費 5億5百万円		改修・修繕費累計額② ・これまで 5億5百万円 ・今後 111億円 計 116億5百万円
今後の整備	大規模改修計画(～H54予定) ・サッカーラグビー場(芝改修) 6億円 ・水泳場(外壁等) 10億円 ・体育館庭球場(人工芝等更新) 9億円 修繕計画(～H54予定) ・サッカーラグビー場機器 5億円 ・水泳場機器 60億円 ・体育館庭球場機器 21億円	111億円	管理費累計額③※ ・これまで 53億9千2百万円 ・今後 108億8千万円 計 162億7千2百万円

運営費(単年度)	支出額(決算額)			収入額(決算額)		
	H21	H20		H21	H20	
人件費	65,137	65,865	千円	料金収入	97,526	74,854 千円
管理費	362,610	349,626	千円	事業収入等	29,352	16,322 千円
修繕費等	163,225	150,938	千円	県費負担額	498,919	500,324 千円
事業費	26,589	17,431	千円			
元利償還金	8,236	7,640	千円			
計	625,797	591,500	千円	計	625,797	591,500 千円
	……………A					

利子累計額④ ・これまで 29億4千2百万円 ・今後 8千6百万円 計 30億2千8百万円
※管理費累計額には人件費累計額を含む。
ライフサイクルコスト計 ①～⑤ 計 430億4千8百万円

成果指標(実績は21年度)			
目標値①	利用者数(合計)	目標値	366,000人
実績		実績	438,817人
目標値②	大会数	目標値	300回
実績		実績	376回

利用者数	
・当初予定利用者数	年間36.6万人
・実績(平成21年度)	438,817人
計	438,817人 …… B
(参考) 利用者1人当たり運営費(H21)	
A÷B H21	1,426円
【 H20	1,903円 】

県民1人当たり運営費(H21)			
A÷C H21	336円	C… (H21推計人口)	1,862,575人(H21.10.1)
【 A÷D H20	316円	D… (H20推計人口)	1,869,669人(H20.10.1)】

管理運営方針(基本的考え方、料金改訂等)

- ・生涯スポーツ振興と競技力向上の拠点となる総合的スポーツ施設としての機能を十分発揮するよう、管理運営を行う。
- ・競技環境の質の維持及び安全性の向上に努める。
- ・効果的かつ効率的な管理運営を行う。
- ・利用者の視点に立った管理運営を行う。

料金体系

水泳場 メインプール・サブプール・トレーニングルーム 一般 450円/回	サッカーラグビー場 メイングラウンド 一般 3,500円/時間 第1,2,4グラウンド 一般 1,800円/時間 第3グラウンド 一般 1,500円/時間 体育館(全部使用) 平日料金 2,300円/時間 日・祝日料金 2,900円/時間 トレーニングルーム 一般 140円/時間 ※全てアマチュアによる入場料を徴収しない場合
庭球場 屋外コート 一般 600円/面・時間 シェルターコート 一般 800円/面・時間 センターコート 一般 1,200円/面・時間	

施設の耐震化状況

建物構造物は、すべてS56. 6. 1建築基準法改正法施行後建築のため、耐震対策済。

施設のバリアフリー化状況

身障者用(多目的)トイレ、身障者(車いす)用観覧席、エレベーターの設置済み

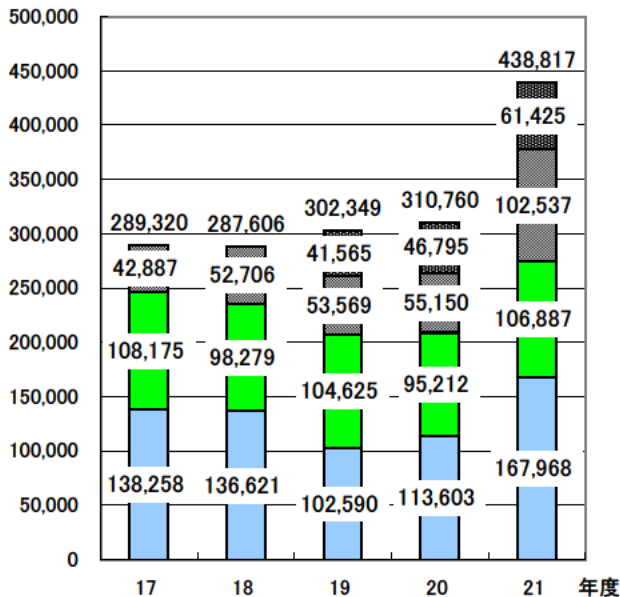
これまでの運営評価と今後の改善方針【担当部評価】(利用率の向上、良質なサービス提供、運営コスト低減など)

- ・競技団体等との利用調整、利用許可や料金收受、施設の維持管理及び修繕等に関する業務を適切に実施している。また、利用規定について、利用者の要望に対応できる限り改定を行っており、より利用しやすい施設の提供に努めている。
- ・休業日の縮小及び営業時間の延長を行っており、利用者サービス及び利便性の向上に努めている。
- ・利用者サービスのさらなる向上に向けた取組を継続していく必要がある。
- ・施設の老朽化対策に予算を確保し、安全・快適な利用環境を維持していく必要がある。

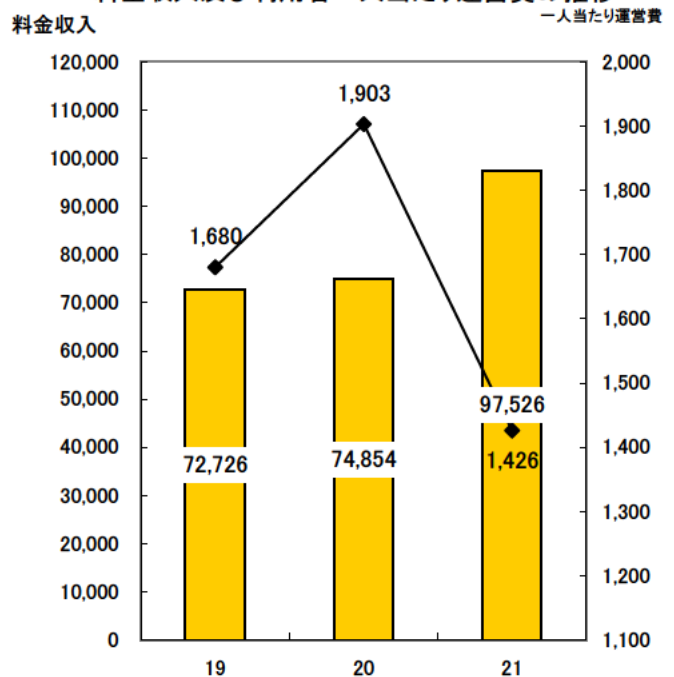
成果指標の推移

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
利用者数(合計)	289,320	287,606	302,349	310,760	438,817
大会数	250	361	354	352	376

人数 利用者数の推移



料金収入及び利用者一人当たり運営費の推移



水泳場 庭球場 サッカー・ラグビー場 体育館等

料金収入 利用者一人当たり運営費